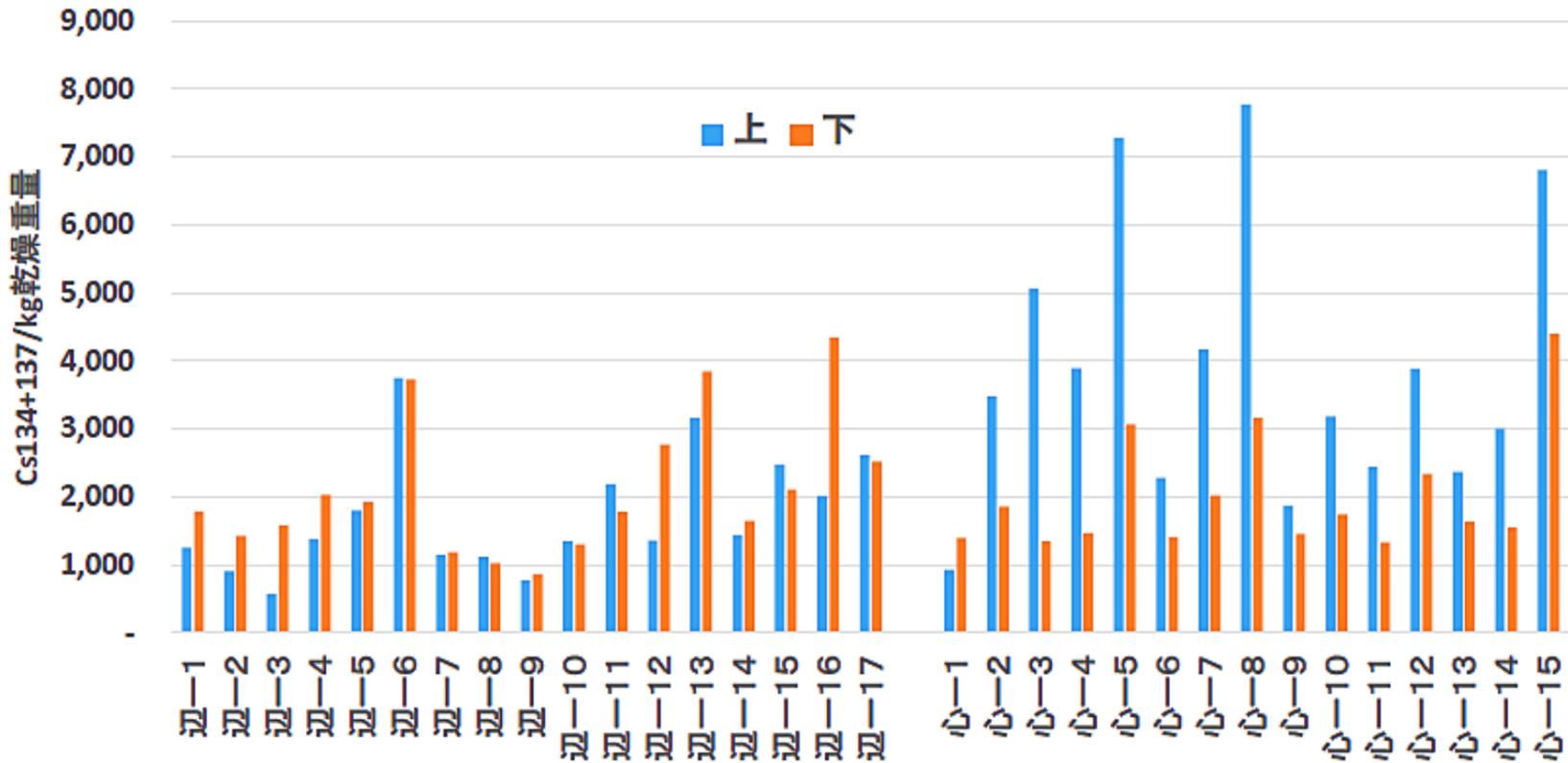


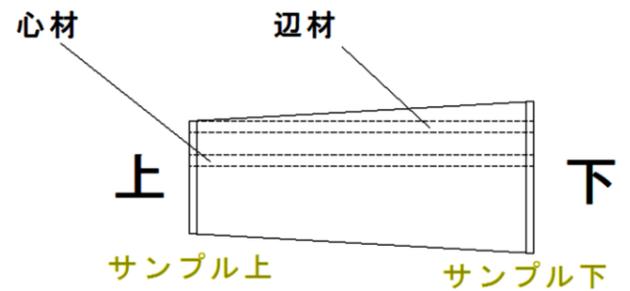
## ◆杉板の放射能濃度

比叡のイグネの杉を製材して、その放射能量(放射性セシウム濃度)を測定しました。辺材の平均濃度は約 2,000Bq/kg、心材の平均濃度は(上端)約 4,000Bq/kg、(下端)約 2,000Bq/kg でした。

杉材の放射性Cs濃度、乾燥後



杉板切出し



## ◆杉板からの放射線量

厚み3cm・幅10cmに加工した杉平板を、芯材・辺材を交互に組み合わせて、約2m×2mの板壁を製作しました。その板壁を使って、周りからの放射線量の少ない半地下のサイロの中に、四辺を板壁で囲んだ層を3層組み立てて、中心部での放射線量の変化を測定しました。

板壁の無い状態で放射線量は 0.08  $\mu$ Sv/h、最初の一層により0.07  $\mu$ Sv/hの上昇があった。3層まで重ねたときの線量変化は段々と緩やかになった。(グラフ参照)  
各層の放射能がほぼ等しいと仮定すると、これは外側放射能からの線量が杉板により吸収されていると考えられる。カーブから計算すると、3cmの杉板自身で約20%程度の低減効果があると期待される。

また村内各地の榎・桜を伐採して放射能濃度を測定し、それらを椎茸・シメジのホダ木にしてキノコの試験栽培を行っています。それらキノコの放射能濃度を測定し、今後データをみなさんと共有していきます。

